



## 現場のざっくばらんな

### 雰囲気

## 大好きです！

重富 加奈さん

KANA SHIGETOMI

●シマダ(株) 監理技師



### とにかく現場で 仕事をしたくて

地元の普通科高校を卒業後、シマダ(株)の土木課に就職された重富さん。

「机に向かってじっとしているのが性に合わないの、とにかく現場を希望しました。会社としては専門学校で勉強したわけでもなく、興味だけで本当にできるのかと心配されたようですが(笑)」

実際に働き始めると、周りにはもちろん男性ばかりで、専門用語が飛び交い会話もままならない日々。これではいけないと終業後も勉強を続け、仕事も勉強もガムシヤラに頑張つて、気がつけば「一級土木施工管理技

士」の資格を取るほどになりました。

「管理者として自分ではまだまだ力が及ばないと思っている24歳の頃に、会社からポンと仕事を任されて。そのときは、こんな若造に業者さんがついてきてくれるの不安で、放り出されたような気になったのですが、考えてみればそれだけ信用してもらつて、しっかりと成長する機会を頂けたのだなと思えました。会社や先輩のバックアップ、業者の方の理解に支えられて、今の私があります」

そして平成24年。シマダ(株)が行った維新百年記念公園都市整備工事が山口県優良建設工事表彰の対象工事に選定され、現場代理人であった重富加奈さんは優良建設工事現場代理人として表彰されました。

「作業に携わつた全ての方々のおかげです。本当に嬉しく思っています」と、重富さんの笑顔が輝きます。

### ケンカしても

一晩寝れば仲直り。  
現場の雰囲気が大好き！

建設業界の中でも、特に男社会である土木の現場。作業に携わる方々とやりとりをし、段取りを組んだり、人との係わりが深い現場管理者の仕事ですが、現場独特の気取りのない言葉遣いや人間関係が重富さんはとても好きなんだそう。



「最初は私が女性ということでは構える男性の方もいますが、徐々に打ち解けて、そのうち遠慮なくケンカしたりもします(笑)。でも、翌日には諍いのことはすっかり忘れて笑顔で仕事。ざっくばらんな雰囲気が大好きです」

### ひとつひとつの現場が

大切な思い出になる。

最近の現場で印象に残っているものを尋ねると、「山口宇部線インターの橋脚下部の現場かな」と重富さん。

「ため池の中に橋梁を建てなくてはいけなかったのですが、水を抜いてみれば、池はヘドロがひどく、さらに周りはお墓で…。夜でも作業をしなくてはならなかったの、いろんな意味でハラハラしました。でも大変な工事であるほど、出来上がった時の達成感はすごくあるし、自信にもつながりました」

「工事が終わった後もその場所を通る度に『あのときはこんなだった』とじーんときたり、携わつた

方々と苦労話に花が咲いたり。みんな力を合わせて成し遂げる仕事なので、ひとつひとつが大切な思い出になりますね」

考えるよりやってみる！

飛び込んでみる価値がある  
仕事です。

最後に、これから建設業界へ進出する女性へアドバイスを頂きました。

「どんな仕事でも頭で考えているだけではわからないし、不安も考え始めるとキリがありません。でも、飛び込んでみると建設業は魅力たつぷりの世界。『考えるよりやってみよう！』です」

「私は10歳になる娘の母でもあります。平日は仕事が忙しく、なかなか子どもとふれあう時間が持てませんが、そのぶん休日にはしっかり一緒に過ごします。周りのサポートを上手に利用しながら、仕事と家庭、生活のメリハリをつけると思います」

終始笑顔で「仕事が大好き！」と語つて下さつた重富さん。輝く女性が建設業界にたくさん増えることを願っています。

シマダ(株) 社屋前にて

